

ごんごちちは！市民病院です！

院長のメッセージ



加東市民病院
院長 金岡 保

新年明けましておめでとう
ございます。

加東市民病院は『地域住民
を人として切れ目なく支援し
ていく』ことで、市民の安心
の確保に貢献していきます。

自家用車で自由に移動でき
る働き世代の地域住民におい
ては、医療資源（設備や人）
と交通の利便性（所要時間）
のバランスを考えたとき、地
域医療を加東市の単位で完結
する時代ではなくなってきました。
このほど、兵庫県では、
地域医療を北播磨圏域の枠組
みで考える『地域医療構想』
が策定されました。これは、
近隣のまちどうしがそれぞれ
の医療機関の専門性や時間帯

10年後も「加東市民病院が

あってよかった」と言われるように

（とくに夜間休日）を考慮し
て支援し合うというものです。
医療の区分でいうと高度急性
期、急性期、回復期、慢性期
の4つに大別されますが、加
東市民病院は急性期と回復期
を担っています。

一方、日々の移動が不自由
な高齢者や、この先も加東市
ですと暮らすことを望まれ
る高齢者の中には、できるだ
け加東市で医療や介護を受け
続けたいと希望される方が多
いと考えています。高齢の方
は、体調や症状はその時々
によって、急性期の医療から在
宅医療や介護が必要な状態ま
で変化していきます。それぞ
れの段階に応じたサービスを
切れ目なく提供することが安
心につながります。加東市民
病院は、地域住民と多職種が
連携して住民をケアする『地
域包括ケアシステム』が実現

できるよう、一般病棟（急性
期）、地域包括ケア病棟（回復
期）、ケアホームかとう、加東
市訪問看護ステーション、地
域医療連携室等を整えていま
す。今後、加東市に必要な病
院のベッド数（職員数）、在宅
医療利用者数（訪問看護師数）、
その他必要な医療需要を正し
く予測し、適正な医療規模を
定め職員を適材適所に配置し
ていくことにより、加東市民
病院は、安心して暮らせるま
ちづくりに貢献し続けること
ができると考えています。

今年も、加東市民病院は、
地域の医療機関や訪問看護師、
ケアマネージャー等との連携
を一層強化し、在宅医療を尊
重していくとともに、地域の
急性期医療までをカバーでき
る体制を整えていきます。
引き続き、ご支援をお願い
申し上げます。

和食の日にあわせ 特別メニュー提供



わたしたち栄養管理科では、11月
24日の『かとう和食の日』にちなん
で、加東市民病院でも何かできるこ
とはないかと考え、当日の昼食を和
食にして提供しました。

当日のメニューは、だし巻き・高
野豆腐と野菜の炊き合わせ・ほうれ
ん草のおひたしです。

わたしたちは、日頃から手作りの
食事を心がけており、だしも毎日昆

布と鰹からとっています。当日に提供しただし巻きも、そのだしを使い、調理師が銅製の玉子焼き器で1本ずつ丁寧に焼き上げたものです。「味付けがよく、おいしかった」と、患者様から好評をいただきました。

栄養管理科では、これからも患者様に喜んでいただけるよう、季節感を取り入れた、安全・安心な食事を提供していきます。

問い合わせ
加東市民病院

☎ 42・5511